

津々浦々

(58)

津久見市長 吉本幸司

記憶を呼び覚ます音楽の力

「津々浦々」の題材を見つけるのに毎月苦勞しています。何をテーマに書くこうかと、いつも頭を悩ませています。今月は特にテーマが見つからず、過去の原稿を読んでいたたら14号で私の趣味の「映画」の事を書いていたのが目にとまりましたので、当時、同じく趣味でした「ポピュラー音楽」について今回は書くことにしました。

これも映画と同じく母の影響ですが、小さい頃から我が家には「蓄音機」がありました。バネを手動で巻いて分速72回転で回る30センチ(12インチ)の回転盤のうえにレコードを乗せ、消耗するレコード針を何回かに一回交換してレコードを聞いていました。4才の頃からの記憶があります。12、13年前に、あるスナックでお客さんがカラオケで「水色のワルツ」を歌ったのですが、うまく歌えず、私が替わって、

この曲をパーフェクトに歌いました。歌った私も驚いたのですが、4才の頃に聞いて以来、50年間位聞いてなかった「水色のワルツ」を難なく歌えたのです。そして急に思い出したのが「二ツ石」の現場事務所でした。

当時、父は土木事務所の津久見港湾事務所(現在の警固屋の公民館の所)に勤めていて、二ツ石と野島を結ぶ県営岸壁(現在の太平洋セメント野島岸壁)の工事で、その現場事務所の隣の宿舎に私の家族は住んでいました。歌い終えた瞬間に50年の空白を超えて、その宿舎の光景が脳裏に浮かんだったので、音楽や映画の思い出は自分の何かの思い出と必ずセットになっているような気がします。

その他に「セントルイス・ブルー」やジプシー民謡の「黒い瞳」、ダイナ・ショアの「青いカナリア」等を聞いていた事を思い出しました。

ポップスと過ごした学生時代

小学校一年生のクリスマスの日に、我が家にレコードプレイヤーが届きました。アンプとスピーカーはラジオに接続し、回転盤と針をプレイヤーが受け持ちます。レコードも45回転の15センチ盤(EP盤)と33回転30センチの(LP盤)となり、回転数を変えれば78回転のレコード(SP盤)も聞けるわけです。その時に一緒に届いたEP盤が「バナナ・ボート」、映画「道」の主題曲「ジェルソミーナ」、そしてE・プレスリーの「ホワイト・クリスマス」でした。

中学一年の頃、東京から帰って来たおばが、「今、東京で流行っている曲だから」と言って買ってくれたのが「渚のデート」と「ミスター・ベースマン」でした。ここからポップスのにめり込むようになり、小銭を貯めてはレコードを買っていました。

そしてその頃、突如現れたのがイギリス出身のグループ、ザ・ビートルズです。リード、リズム、ベースのエレクトリック・ギターの3人とドラムス担当の計4人が自分

達で演奏し自分達で歌う、グループ・サウンドという形式が当時は珍しく、日本での最初のヒット曲「プリーズ・プリーズ・ミー」を聞いたときは、どう表現して良いか分からない嬉しさを感じました。勉強しない日はあってもレコードを聞かない日はありませんでした。

中学三年生のころは勉強しているふりをして深夜放送を聞くこともあり、二ッポン放送の高崎一郎のDJ(ディスク・ジョッキー)に夢中になっていました。ビートルズはヒット曲のほとんどは自分たちで作詞・作曲をしていますし、一週間ごとのヒット10の中にビートルズの曲が6曲も入っている事もありました。

そして高一の頃、深夜放送の番組の中から高崎一郎のアナウンスがありました。「今、アメリカのヒットチャートを上昇中で、日本では未発表の曲を聞かせましょう」と流れたのがサイモンとガーファンクルの「サウンド・オブ・サイレンス」だったのです。

この続きは、またの機会に!!